

## NEWS RELEASE

2021年5月12日

日本豆乳協会

SOY2106

### 日本豆乳協会

#### 2021年1月 - 3月期における豆乳類の生産量、95,441 kℓを維持

～ 新型コロナウイルス感染拡大の影響を受けたものの、調製豆乳や果汁入り豆乳飲料の生産量は拡大し、豆乳類全体では、昨年とほぼ同量の生産量に達する～

日本豆乳協会（事務局：千代田区二番町 会長：藤村 公苗 キッコーマンソイフーズ株式会社 代表取締役社長、事務局長：杉谷智博、以下豆乳協会）では、2021年1-3月期における豆乳市場の動向について検証したところ、豆乳類全体の生産量は95,441 kℓとなり、前年と比較すると99.1%で、ほぼ同量となりました。

豆乳協会では、四半期毎に国内豆乳生産量を検証しており、豆乳類を分類別に見ると、「豆乳（無調整）」の生産量は27,534 kℓ、97.6%となりました。また、生産量が最も多い「調製豆乳」は、47,610 kℓ（101.6%）、「果汁入り豆乳飲料」は、3,923 kℓ（102.1%）においては、昨年同期を上回る生産量を記録し、コーヒーや紅茶などの「フレーバー系の豆乳飲料（その他）」は、12,847 kℓ（96.3%）となり、出荷量においても生産量と同様の傾向を示しました。なお、主に業務用を用途とする「その他」のカテゴリーにおいては3,527 kℓ（86.9%）、外食需要の減少による影響を受けました。

豆乳協会では、生活者が豆乳の特長や成分の優位性に触れる機会が増えたことが後押しとなり、2018年以降、「豆乳（無調整）」や「調製豆乳」などの豆乳愛飲者のリピート購入が増えている傾向にあります。2020年においては、新型コロナウイルスの影響を受け、“巣ごもり需要”が拡大したものの、2021年になり、外食需要の減少等が起因し、生産量の成長にも影響を受けました。今後も、生活者への飲み方、食べ方、料理などの提案を続け、豆乳を愛飲する習慣を浸透させていきます。

豆乳協会では、中長期的に、国民一人あたりの豆乳（類）年間飲用消費量を4ℓに増加させ（2015年2.4ℓ / 総人口12,700万人）、年間総生産量を50万kℓにすることを目標にしています。今後も、昨今の新型コロナウイルス感染拡大の影響等を鑑み、時代や環境に合わせて、豆乳に対する人々の理解や関心を高め、年間を通じて様々な啓発・啓蒙

活動を展開していきます。

(参考)

日本豆乳協会は、豆乳および豆乳製品の普及を第一の目的に様々な啓蒙活動を行っています。昭和54年9月1日に設立して以来、豆乳メーカー各社が会員となり、メーカー同士の親睦や情報交換、さらには他の機関や団体との協調を図っています。豆乳類の製造、加工、品質、流通に関する研究はもちろん、業界の健全な育成、発展に寄与することをミッションに、日々、豆乳の普及や期待される効果・効能の啓蒙活動を展開しています。毎年10月12日を「豆乳の日」と制定し、業界全体が一丸となって豆乳の普及に向けて様々な活動を行っています。

～報道関係の方のお問い合わせ先～

日本豆乳協会 広報担当

(株)VA インターナショナル  
田中/陳

TEL:03-3499-0016 FAX:03-3499-0017